

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式 62 (うち 2 桁数字のマーク 62) 記述式 13 論述式 3

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加) 難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

マーク式は 5 つ増加したが、記述式が 1 つ減少、論述式が 1 つ減少したため、全体の分量に変化なし。昨年度は一部細かい知識を問う問題があり、解答しにくいものもあったが、今年度は細かい知識を問うものが少なかったため、難易度はやや易化した。

出題の特徴

長文の空欄補充を中心としたマーク式・記述式・論述式が併用して出題された。空欄補充の選択肢は 50 音順に並んでおり、求める解答がどこにあるかを早く見つけることが必要である。また、選択肢の語群には紛らわしいものがあり、他に正解になり得るものがないか確かめる必要がある。

その他トピックス

2022 年度早慶レベル模試では、第 1 問の家畜に関する問題で、牛の飼育頭数 1 位であるブラジル、チベット高原の家畜であるヤク、トレーサビリティ、遊牧、冷凍船を、第 4 問のアフリカ地誌で、断層湖のタンガニーカ湖を出題した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式 論述式	鉱産・エネルギー資源	問 1 は、OPEC の設立年次や原加盟国など、やや細かい知識を問う問題もあったが、基本的なものが多かった。問 3 (え) の大陸プレートどうしがぶつかり合う境界に関する問は、せばまる境界のうち、衝突帯と沈み込み帯の 2 パターンがあることに注意したい。	標準
II	マーク式 記述式 論述式	アフリカ地誌	マーク式、記述式ともに基本的な内容が問われており、問 4 のアスワンハイダム建設後の影響に関する論述問題も書きやすい。	やや易
III	マーク式 記述式 論述式	乳製品の生産	問 1 は、いずれも基本的なものが中心に出題されているため高得点を狙いたい。問 2 のフードシステムの説明は、指定語句数が少なく書きにくい、最低限のことを簡潔にまとめよう。	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 資源や産業、特に企業活動の国際化や先端産業の動向などに加え、国家・民族分野は頻出である。
2. 地誌では自然、産業、文化、近現代史まで幅広く問われる。地図を用いた出題はあまりないが、地図を前提とした出題も多く、常に地図を用いた学習を心がけよう。
3. 論述式への対応もしておきたい。論述は短い字数の出題が中心で、教科書の索引を活用し、太字の語句を 30 字前後で説明し、用語集などで確認する練習を繰り返すこと。さほど難しいものは出題されないと思われるので、決して敬遠しないように。
4. 教科書の内容に沿った出題が多く、教科書の記述がそのまま論述問題の解答になることもあるので、脚注や図の説明も含め、教科書を徹底して読み、用語の定義や事項の説明などを書き写して整理しておこう。
5. 本学独自の長文の空欄補充形式に早く慣れておくこと。ある程度学習が進んだ段階に至らないうちは解答時間を意識しない方がむしろ良い。長文は、解いた後で空欄を入れ文章を完成させたものを学習のまとめとして利用しよう。